



いろいろに見えるんだ

年少 たんぽぽ組

幼稚園に来たら自分でやっていくことが沢山あります。家庭ではあまり聞かない物の名やその物のある場所を知って一つずつ照らし合わせていきながら、手順を覚えていきます。身支度が一人でやりきれたときの笑顔が光って見え、やがてその子の自信に繋がっていくようです。

さて、支度が終わってしばらくたったころ、Aちゃん是一本の紐に洗濯ばさみを沢山付けていました。洗濯ばさみを指で挟んで先を開くのも結構大変なことなのですが、粘り強く一つひとつを付けていました。20個以上、付けたでしょうか。「魚獲れた」——この声でAちゃんが魚を釣っているつもりだったことに気付きました。「いっぱいだね～」と話していると、二人の子が近づいて来て、「やりたい」と言ってきました。仲間のしている事に興味をもったのでしょう。自分で動き出したのです。

紐を渡すと早速、「釣り」が始まりました。シフォンの布を敷いてみました。何だかその場が池か川に見えてきたようです。釣り人はそれぞれに大漁です。さて、次はどうするかと見守っていると、「骨、取らなくっちゃ」と言って、ままごとコーナーから皿と包丁を持ってきます。もう一人は、赤い井形のブロックを山のようにして、そこに魚に見立てた洗濯ばさみを置きました。「焚火だよ」「焚火?」「焼くんだよ」。

そこで私は、「♪さかなっこ焼いて とっくらきゅーして焼いて しゅうゆをつけてたべたらうまかろー♪」と、わらべうたをうたいました。「も一回やって」の声に促されて、私は何度もうたいました。聞きつけた子が増えてきて、焼けた魚を「もぐもぐもぐ」と食べています。すると、今度は「骨、どうするの?」の声が上がり、「♪ほねっこやいて とっくらきゅーしてやいて しゅうゆをつけてたべたらうまかろー もぐもぐもぐ♪」とうたうと、子どもたちはけらけら笑っています。

釣っては焼いて、うたって食べて、また釣って……を繰り返して遊びました。短い時間ではありましたが、子どもたちの想像の世界が垣間見えたひと時でした。(高橋敬子)





アオゲラが運んできてくれたもの

年長 たか2組

子どもたちの進級を祝うかのように、巣づくりをはじめた綺麗な色の鳥。その巣は、たか2組の保育室からよく見える桜の木にあります。

その巣を見つけるやいなや「キツツキだ!」「ヤマゲラじゃない?」と図鑑を見たり、自分の知識を引っ張り出したりしながら、目の前で巣をつくる鳥を見つめます。

翌日になると子どもたちが、鳥図鑑などを持ってきてくれました。「やっぱり、アオゲラだ!」「頭の上が赤いもん!(ヤマゲラはアオゲラほど頭の上が赤くない)」「でもそんなに赤くないものも来ているよ」「だからまだ、わからない」と言います。

ある日、子どもたちの持ってきてくれた図鑑の中に、QRコードを読み取ると鳴き声を聞くことができるというものがありました。「これ、やってほしい!」「聞きたい!」との声を受けて、クラスタイムで聞くことになりました。「この声を聞けば、どの鳥なのかわかる!」と、子どもたちは耳を澄まします。

「ピョーピョー」。鳴き声が流れます。すると、その声に応えるかのように、巣づくりをしている鳥が同じ鳴き声で応えてくれました。「これだ!やっぱりアオゲラだったんだ!」「同じ声だもん!」と、目の前にいる、色の綺麗な鳥の正体はアオゲラだったと、子どもたちは確信をもちました。

「子どもたちがうるさかったら、来てくれなくなるから、静かにしよう!」「あとさ、みんなが見ていたら嫌がるからさ、そうだ!カモフラージュ作戦しよう!」と庭から枝や葉っぱを集めてきて、保育室に飾ります。

窓には緑と茶色のカーテンをつけ、観察するときはそーっと隙間から覗く、というルールが子どもたちの間で決まっていきました。

しかし、毎日のように来て、木に穴をあけていたアオゲラが突然来なくなりました。

「うるさかったのかな」「鳥って目がいいからね」「違う木にいったのかも」「散歩しているだけじゃない?」「もしかして、もう卵、産んでいるんじゃない?」「カラスがたくさん来ていたからさ、怖くて来なくなったのかもかもしれない」と子どもたちは、自分たちの行動を省みながら、アオゲラに想いを馳せます。

アオゲラが戻ってくるように、子どもたちは空き箱や牛乳パックをつかって、仲間となるアオゲラをつくりはじめました。連休中も来ている様子はなく、「もう来ないのかな」と落胆していた子どもたちでしたが、つい先日、また再び姿を見せてくれました。

アオゲラが運んできてくれたもの——それは、わくわくした気持ちをもち続けながら想像することや、生命や自然に思いを巡らせることだったかもしれません。

どうか、この巣を選んで子育てをしてくれますように。子どもたちと共に静かに見守りたいと思います。

(深田美智子)

